

「子どもの学びや成長を支える人や環境の 充実」について

01 魅力ある学校環境の整備

魅力ある学校環境の整備

課題

- 施設の老朽化
- 学校の適正規模・適正配置

取組の方向性

- 時代に応じて**変化していく学び・働き方に対応**するため、将来を見据えた学校環境の整備を行う。
 - ✓ **多様な学び**が展開できる柔軟で創造的な学びの空間
 - ✓ **きめ細かな個別支援**が実現する場
 - ✓ 教職員が**働きやすい執務空間**
 - ✓ 子どもの**安心・安全**を確保しつつ、地域防災の拠点となる学校
 - ✓ 地域と連携・協働する、**地域とともにある学校**
 - ✓ 環境に配慮した**持続可能**な教育環境
 - ✓ 教科書や参考書などの「教材」から、電子黒板や実験器具などの「教具」、机や椅子など「家具」を含めて、**学びの空間の一体的な整備**
 - ✓ 時間や場所に限定せず**ICTを活用できる**教育環境の整備
- 学校の適正規模・適正配置について、まちづくりや大規模集合住宅建設に伴う児童・生徒数の推計、学校の老朽化状況、区財政状況等を踏まえるとともに、学校とその他公共施設の連携・複合化をはじめとした**次世代の公共施設や学習空間のあり方**を総合的に判断し、全庁的に取り組む。

参考：学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」（令和4年3月）

今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会（第12回）配付資料（令和6年6月）

東京都板橋区立学校の適正規模及び適正配置に関する答申（令和6年4月）

板橋区立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針（令和6年7月）

参考①：改築校の特徴

- 上板橋第二中学校（令和4年竣工）

一般社団法人文教施設協会の実施する「優良学校施設表彰」で部門賞「新しい教育環境」部門に選定！オープンな図書館や、生徒の主体性の向上等を目標に、各教科の専用教室へ移動して授業を受ける教科教室型の運営方式を前提とした設計等を評価。

ホームベースと教室



教室と教科メディアスペース



- 教科センター方式は、授業を専用教室（教科教室）で行う。
- 教科教室に加えて、多目的スペースや教材室などを組み合わせた教科ごとのエリア（教科センター）で構成。
- 生徒はホームベース（生徒各自のロッカーが設置された部屋）とホームベースに隣り合わせのクラスルーム（教科教室と併用）を活動拠点とし、必要な学習用具をもって各教室に移動して授業を受ける。

参考②：改築校の特徴

・ 図書館

オープンな図書館（メディアセンター）

生徒が通る廊下からもアクセス可能



図書館に繋がる階段

生徒が腰を掛けられるクッション



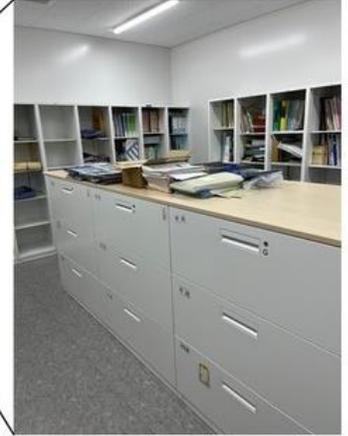
学校の中心で、子どもが多く行き来するオープンなスペースに本棚を設置し、子どもが本に触れやすく、目に触れやすくすることで、子どもが自ら学ぶ環境の充実を図っている。

・ 職員室

フリーアドレス型職員室



職員室内の職員用ロッカー



教員は自分の席を自由に選択可能。日常的に教員同士のコミュニケーションが多様化するほか、常に座席が整理整頓され、業務効率も期待できる。

・ トイレ



・ 環境に配慮した取組（屋上緑化、ソーラーパネル）



参考③：取組の方向性のイメージ

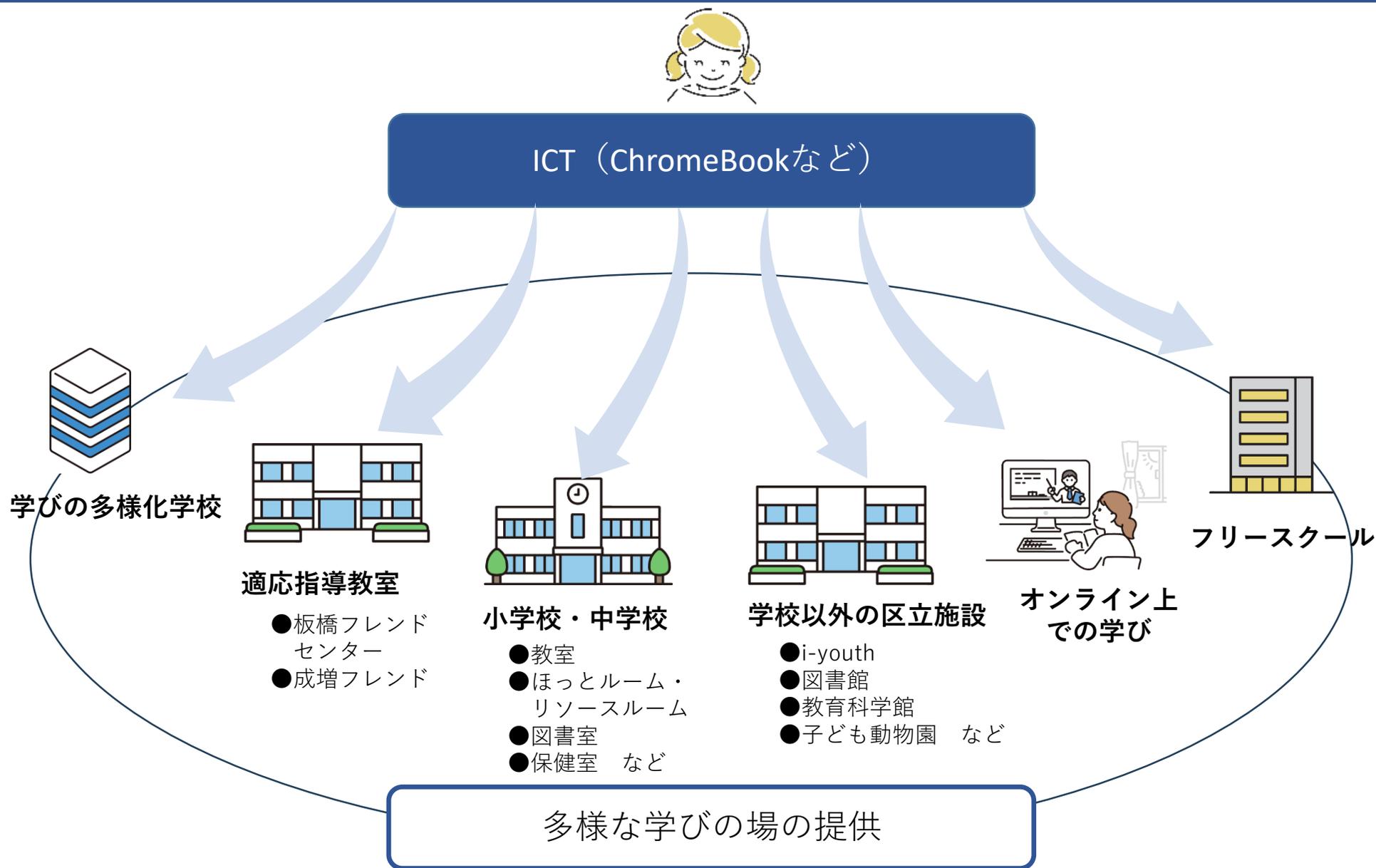
- 子どもの安心・安全を確保しつつ、地域防災の拠点となる学校
- 地域と連携・協働する、地域とともにある学校



- 学校施設と公共施設との複合化

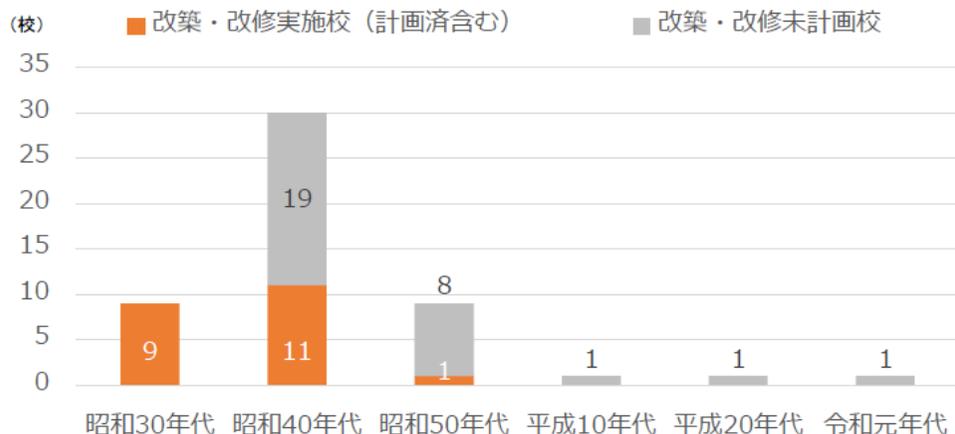


参考④：子どもたちがICTを活用して、学びの場を選べる環境を作る

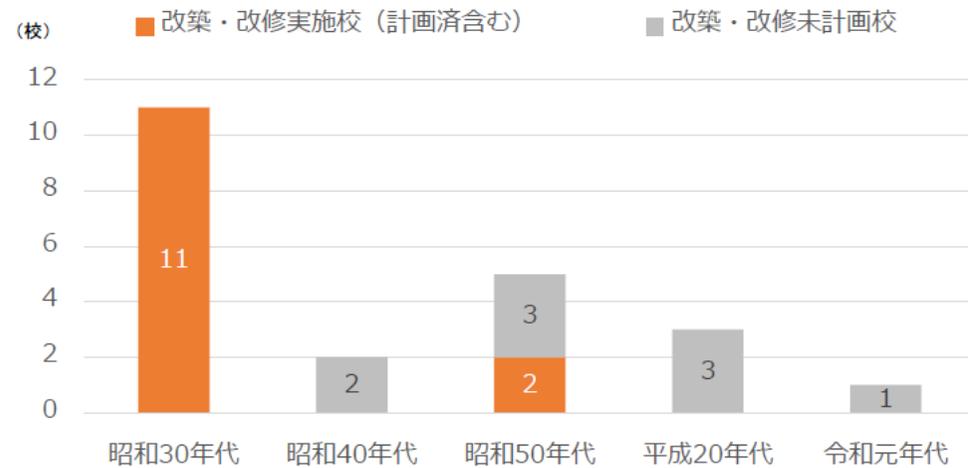


参考⑤基礎データ

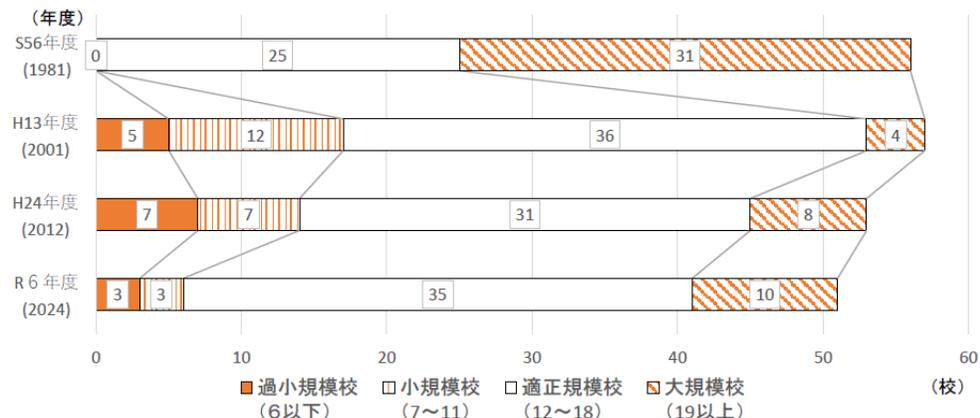
- 建築年代別・学校施設更新数（小学校）（※1）



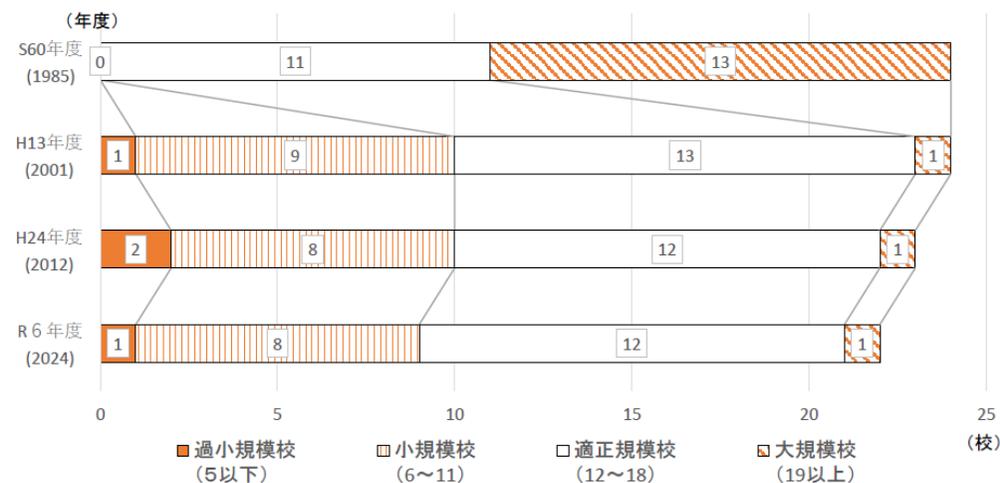
- 建築年代別・学校施設更新数（中学校）（※1）



- 小学校における学校規模の推移（※1）



- 中学校における学校規模の推移（※1）



※1：板橋区立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針